

性的マイノリティの基礎知識 ～子どもに関わる大人がこころがけたいこと～

2024/7/20(土)10:50～11:40

渡邊 歩 (NPO法人共生ネット副代表理事、公認心理師)

※無断撮影・録音は一切禁止とさせていただきます。
※配布資料は二次利用・配布・転載・複製・無断引用を固くお断りいたします。

講演を受けるにあたっての注意事項

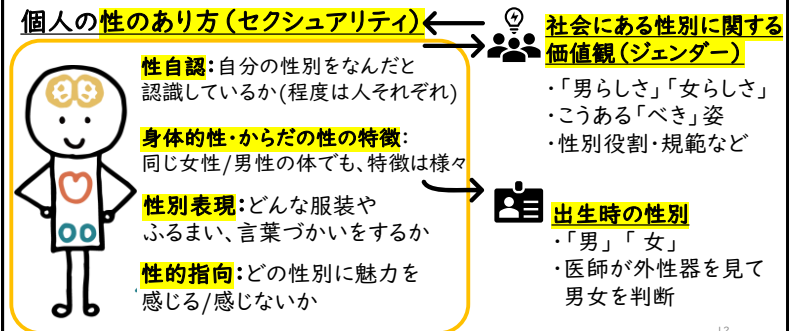
- ・講座の録画・録音撮影、他の参加者の撮影等は禁止です。
- ・本講演で話される個人に基づくエピソード(講師の個人情報を含む)は、口外禁止です。
- ・配布資料の二次配布やHP・SNS等への転載はご遠慮ください。
共有したいときは、参考文献を読んで、自分の言葉で伝えてみましょう。

本日の流れ

1. LGBTQと性の構成要素
→ LGBTQと「ふつうの人」の境界線を見直す
2. LGBTQの子どもたちの困難
→ どういう表出や困難があるかを知る
3. 大人にできること
→ 対応するための知識と普段からできることを知る
4. 質疑応答

5

個人の性のあり方(セクシュアリティ)と社会の関係

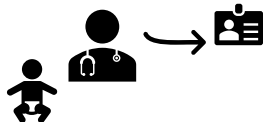


12

身体的性・からだの性の特徴、出生時の性別

■ 身体的性・からだの性の特徴 (sex / sex characteristic)

- 胎児期に分化するが、**身体はグラデーション**。身体的特徴は人それぞれ。
同じ女性/男性の体でも、特徴は様々 (骨格、丸み、筋肉量、声の高さ等)。
- 12歳までは性差はなく、明らかな差が出てくるのは14歳以降 (参考: JSPQ 日本スポーツ協会)
- 統計的な差はあっても**男女で重なる部分は多く、個人差の方が大きい**。

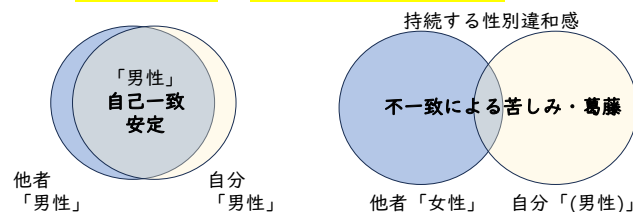


■ 出生時の性別 (sex assigned at birth)

- 医師が**外性器**で男性か女性か判断し、
行政に届出がなされて決まる (※**例外あり**)

性自認/性同一性 (gender identity)

- 自分自身の**性別**に関する**一定の連続性・一貫性・持続性**を伴った自己認識。
- 「identity」は、**気づいていくもの**。自分の意思で自由に変えられない。
- 自分をどれくらい「**男／女である**」「**どちらでもある／どちらでもない**」と思っているかの**度合い (濃淡)**は、**個人や状況によって異なる**。



14

注意点: 性別表現 (gender expression) ≠ 性自認



見た目 (服装、化粧、髪型等) や行動 (振舞い等) などから、自分をどんな性別として表現するか。※「女・男らしい」とされる表現は、**個人や文化により異なる**。

- 周囲の人が、性別表現を基に**勝手に他者の性のあり方を決めつける**ことがある (例: 出生時の性別に求められる性別表現をしない人=LGBTQという決めつけ)
- 目に見えやすいから「性自認」と混合されがち**。どんな性別表現でも、**その人の性別表現と性自認は必ずしも一致するわけではない**

「オネエ」は「女装」するから、性自認が女性?

ジェンダーレス・ファッション=性自認がどちらでもない人たち?



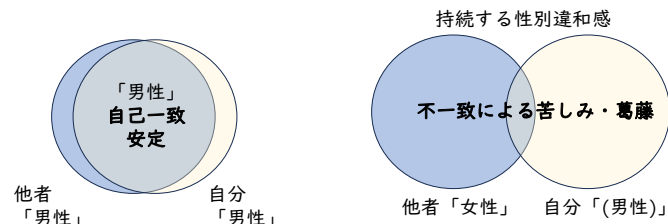
「出生時の性別 (≡からだの性の特徴) × 性自認」

シスジェンダー

出生時の性別と性自認が**一致**している人

トランスジェンダー

自身の身体や、出生時の性別に**違和感があり**、それとは**異なる性自認**を持つ人



トランスジェンダー、ノンバイナリー



トランスジェンダー女性(トランス女性)

出生時の性別: 男性
性自認: 女性(あるいは女性として生活)



トランスジェンダー男性(トランス男性)

出生時の性別: 女性
性自認: 男性(あるいは男性として生活)



ノンバイナリー / Xジェンダー

出生時の性別に関わらず、性自認が男女どちらにも当てはまらないと感じている人

性別違和・性別不合

Gender Identity Disorder / Gender Incongruence

トランスジェンダーの中でも、その人が身体的な治療を望む際、医師が診断基準に基づきアセスメントをして下す診断名のことを指す。



17

性的指向 (sexual orientation)



自分がどの性別の人間に対して**魅力(性的欲望や恋愛感情)**を感じる/感じないかに関する**自己認識**。※交際経験等の有無は問わない
気づいていくもの。自分の意思で自由に変えられない。

基本的には、**性自認を軸として異性・同性かを判断する**が、単純に「男性/女性が恋愛対象」という表現をする人もいる。

- ・異性愛(ヘテロセクシュアル): 性自認と異なる性別に魅力を感じる人
- ・同性愛
 - ・レズビアン: 性自認が女性で、女性に魅力を感じる人
 - ・ゲイ: 性自認が男性で、男性に魅力を感じる人
- ・両性愛(バイセクシュアル): 男女どちらにも魅力を感じる人
- ・全性愛(パンセクシュアル): 魅力を感じる相手の性別は問わない
- ・無性愛(アセクシュアル): 他者に(性的・恋愛的)魅力を感じない人等

「ジェンダー」社会・文化的に作られた性別

生物学的性(sex)の対義語として使用される

女性だから人のお世話が得意なんだね

男性なのにケアワーカーってめずらしいね

「女性」議員、「女性」棋士、「女性」管理職
「男性」看護師、「男性」保育士、「男性」介護士



ジェンダー(gender): 「女/男らしさ」など、社会や文化により作られてきた性別のこと。時には「男/女はこうあるべき」という性別規範により、個人のあり方が侵害されたり、それに基づく性差別(男/女のくせに〜)が起こる。

18

【参考資料】性別にまつわるイメージ、圧力

男性(実際にそうかは別)

- ・シスジェンダー・異性愛者
- ・頼もしい(富・名声・力)
- ・弱音を吐いたらダメ
- ・女性をリード
- ・結婚しない・非モテ = 悪い/負け組イメージ
- ・死ぬほど働かないとダメ
- ・家事・育児は「お手伝い」
- ・浮気は本能(だからOK)



女性(実際にそうかは別)

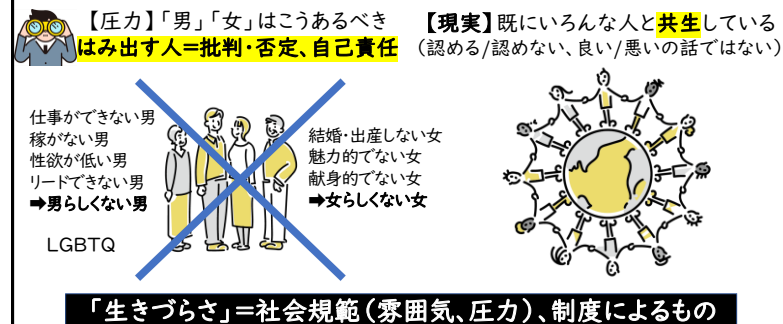
- ・シスジェンダー・異性愛者
- ・愛想がいい、気が利く
- ・スイーツが好き
- ・見た目をよくする (選ばれる=モテるために)
- ・結婚、妊娠、出産の圧 (30歳までに結婚)
- ・働いて家計を支援/主は夫
- ・家事・育児の担当

25

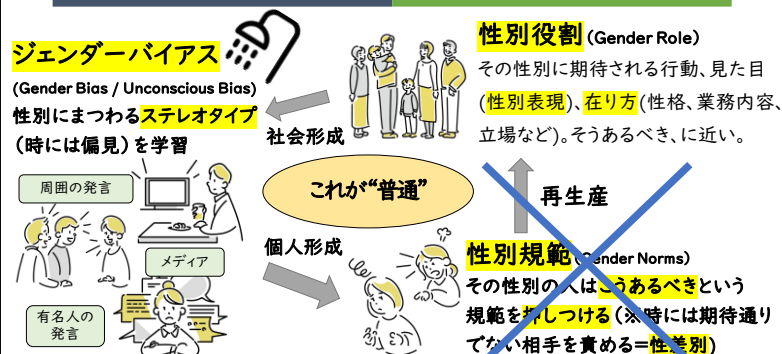
社会にある性別に関する価値観（ジェンダー）



LGBTQとジェンダーの関係は「同じ問題」



「再生産」を食い止めよう



LGBTQ (性的マイノリティ) とは

3~10%

- ◆ LGBTQ：性のあり方が「少数派」とされる人たちの総称。
- ◆ ホモ、オカマ、レズ、オトコオンナ等は差別用語なのでNG

性的指向

異性愛

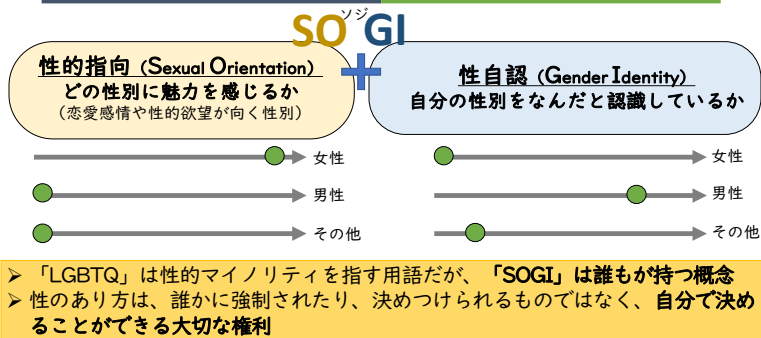
同性愛 (レズビアン、ゲイ)
バイセクシュアル (両性愛)
パンセクシュアル (全性愛)
アセクシュアル (無性愛) 等

出生時の性別×性自認

シスジェンダー (一致している) 女/男
少数派

トランスジェンダー (一致していない)
ー性自認が男性のトランス男性
ー性自認が女性のトランス女性
ー性自認が男女どちらでもない
Xジェンダー/ノンバイナリー 等

性的指向・性自認=SOGIは誰もが持つ概念



早稲田ウィークリー (2023) ジェンダーについて丸分かり! 今こそ知りたい基礎知識、教えます

性に関する発達段階

- 2～3歳で性別の違いを理解し、3歳には性自認が芽生え始める
 - 当事者が性別違和を感じる時期：2・3歳～思春期で揺らぎあり
- 幼少期に出生時の性別とは異なる性自認や性別表現をする子もいる。
- 幼児期の性別違和感は、その後消失したり、のちに同性愛だと判明すること多いが、思春期（特に第二性徴時）にも持続・増強する場合には、ほとんどが性別不合/性別違和と診断される。
- 思春期や第二性徴になり、身体の変化から性別違和を感じる子もいる。
 - 第二性徴までは性自認や性別表現が変化する可能性も含んでいる。
 - 「あとでシスジェンダー・異性愛者になるかも」と、現状の自身の困りごとや悩みを放置されると、「自分が大事にされない存在」だと自己否定・希死念慮に繋がる

想定されていない「性の多様性」

- LGBTQや性の構成要素、ジェンダーについて学校や大人から学ぶ機会がない。
 - シスジェンダー・異性愛者であることが前提で人から接される
 - 集団から外れない（いじめられない）ために、「女/男らしく」なるように指導あらゆる場面で男女分けを行う（名簿、性別欄の記入、グループ等）
- ➡ 子どもが拒否すると、親や大人は戸惑う/叱る/無視する

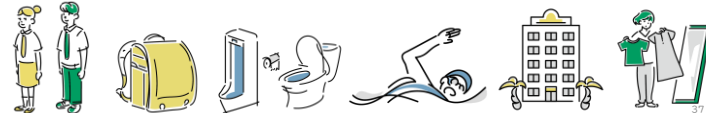
これをしたら「なんとなくいけないもの」だと子供たちが学んでいく
 =性別規範を獲得し、男/女になっていく（ジェンダー化）
 ➡ 性別規範に当てはまらない＝指導やいじめの対象に



青野・土肥・森永 (2022) 『新版：ジェンダーの心理学－「男女」の思い込みを科学する』 ミネルヴァ書房。

困難場面①男女分け

- 性別で分けられることで、性別違和がある子にとって葛藤する場面が多く、ストレスを感じる機会が増えていく。
 - (例) グループ分け、仕事内容、物の色分け、トイレ、着替え、服装（水着、制服等）、宿泊合宿の部屋割り・お風呂等
- 個人差はあるが、性別違和のある子は、自身の性自認と身体の不一致がより強化していくことにより、メンタルヘルスが増悪



困難場面②子ども同士の関係

- ・同級生同士の関係が重要になっていき、同性の小集団で居場所がないと感じる（女/男らしくないと排除される恐怖から嘘をつく・本音で話せない、自身の恋愛・性の悩みが話せない疎外感・孤独感等）
- ・性に関する知識を学ぶ機会がないことで、自分の違和感何なのかわからず、それを言語化できないことで不適応行動を起こす子もいる（暴れる、キレる、加害/自傷等）



- ・本当のことを話して、周囲に広められていじめ被害に遭う子もいる。
- ・本当は嘘をつきたくないが、同性が好きなことや、性別に違和感があることを悟れないために、いじめる側にまわる子もいる。



38

2016年調査 国内最大規模 1万5千人規模の全国調査

全体の88%が20～40代、47都道府県からの回答 回収数16,670件、有効回収数15,141件（海外在住者77名含む）
本日の報告は国内在住者15,064件に限定

いじめ被害・不登校・自傷行為・自殺念慮・自殺未遂 生涯経験率

経験率	レズビアン 372人 ¹⁾	ゲイ 9,849人 ¹⁾	バイセクシュアル (男性) 1,585人 ¹⁾	バイセクシュアル (女性) 219人 ¹⁾	トランスジェンダー (MTF) 178人 ¹⁾	トランスジェンダー (FTM) 98人 ¹⁾
いじめ被害	47.8% ¹⁾ 10代では 34.8%	58.5% ¹⁾ 10代では 49.1%	53.2% ¹⁾ 10代では 45.8%	54.8% ¹⁾ 10代では 42.1%	68.0% ¹⁾ 10代では 85.7%	58.2% ¹⁾ 10代では 58.3%
不登校	23.4% ¹⁾ 10代では 30.4%	19.6% ¹⁾ 10代では 28.8%	17.1% ¹⁾ 10代では 24.6%	26.9% ¹⁾ 10代では 31.6%	33.1% ¹⁾ 10代では 57.1%	34.7% ¹⁾ 10代では 58.3%
自傷行為	23.1% ¹⁾ 10代では 47.8%	8.6% ¹⁾ 10代では 16.9%	8.1% ¹⁾ 10代では 15.3%	24.2% ¹⁾ 10代では 42.1%	15.2% ¹⁾ 10代では 42.9%	33.7% ¹⁾ 10代では 50.0%
自殺念慮	—	65.9% ²⁾ 10代では64.7%	異性愛男性に比較してゲイ・バイセクシュアル男性の自殺未遂リスクは5.98倍高い (Hidaka et al, 2008) 性的指向を友達にカミングアウトしている人ほどリスクが高く、6人以上にカミングアウトしていると、自殺未遂リスクは3.2倍高い (Hidaka et al, 2006)			
自殺未遂	—	14.0% ²⁾ 10代では16.2%				

1) 2016年調査LGBT当事者の意識調査 ～いじめ問題と職場環境等の課題～
2) 日高庵晴、木村雅和、市川誠一 (2007) 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究推進事業 ゲイ/バイセクシュアルの健康増進-12 有効回答数5,731人

・どの項目もハイリスク層

・カミングアウトすることで周囲にバラされ、自殺に追い込まれることも

39

困難場面③大人や社会との関係

- ・教育や社会制度の中でLGBTQの存在が不可視化されたり、からかいの対象に。
- ・周囲の大人がLGBTQの存在を否定的にとらえていたり、いないと思ってネタにしたり悪口を言うのを見聞きすることで、自己否定をしたり、社会から必要とされていない存在と認識してしまう。
- ・ポジティブなロールモデルがないので、将来像を描けない。



- ・そんな大人には相談しにくい
- ・言語化能力的にも、知識のない大人を説得できないので、対応してもらえない。
- ・相談しても「一時の気の迷い」「今だけ」。
- ・共有と称し、勝手に家族や他の大人にバラされることも。居場所を失い、家庭内虐待やいじめにつながるケースもある



40

カミングアウトの実態:話した相手

	性別違和のある男子	非異性愛男子	性別違和のある女子	非異性愛女子
同級生	58%	61%	75%	77%
同年代の友人(部活の友人)	29%	36%	36%	36%
同年代の友人(その他同じ学校の友人)	13%	31%	25%	22%
同年代の友人(学外の友人)	42%	18%	24%	27%
担任の教師	29%	10%	17%	7%
養護教諭(保健室の教師)	23%	11%	22%	6%
その他の教師	13%	10%	21%	7%
父親	23%	7%	13%	5%
母親	58%	13%	31%	13%
きょうだい	13%	10%	16%	11%
親戚(親類)	6%	3%	7%	0%
近所の人	3%	0%	2%	0%
医師	29%	4%	11%	1%
カウンセラー	16%	19%	19%	7%
当事者団体の人	13%	28%	8%	3%
その他	13%	14%	11%	13%

いのちリスペクト、ホワイトボーン・キャンペーン(2013)「LGBTの学校生活に関する実態調査」
※9%は「だれかへ話した」と回答した者に占める割合

■ 話した相手

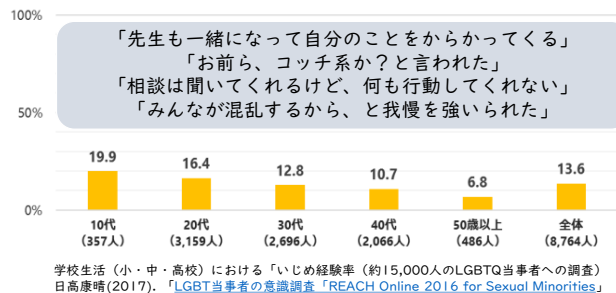
- ① 同級生(約6～7割)
- ② 同性代の友人(約3割)
- ③ 母親(T:3～6割、LGB:1割)
- ④ 先生(1～3割)

※「大人」相手は非異性愛と性別違和のある子どもで差がある

➡ 男女分け文化により違和感生まれやすいことや、医療アクセスの必要性から、打ち明ける必要があるため

41

先生がいじめの解決に役立ったか



➡ 若い年代ほど増えるが、約1～2割程度

42

家族とLGBTQ

■子どもにとってカミングアウトすることへの不安

- ・受け入れてもらえるか、否定されたらどう生きていっていいかわからない＝嘘を重ねる
- ・虐待を受ける可能性を恐れ（身体的、性的、ネグレクト、心理的虐待）
- ・場合によっては家という安心できる居場所、親という相談相手、経済的基盤を失う

■親も葛藤が生まれる

- ・子どもの悩みを否定：「そんなはずない」「気のせい」「大人になったら治る」
- ・将来への不安：「子供は幸せになれるのか」「自分は社会の偏見から守れるだろうか」
- ・育て方への不安・非難への恐れ：「自分の育て方がまちがえたんだろうか」「親戚に合わせられない」「妻/夫の育て方・かわり方が間違えていたんだ」

子どもがLGBTだった場合の嫌悪感＝約3/4「有り」。20-30代でも6割前後が「有り」

LGBTQが不可視化されてきた空間

■ シスジェンダー・異性愛が前提で、性別規範に違和感がある人を想定していないルール

- 男女分け（席、整列、色など）
- 指導内容、声かけ、関わり方
- 学習内容 など

➡ 当てはまらない人で、かつLGBTQ当事者で、かつそれを表明できる人のみ「合理的配慮」



いない前提＝ 否定的な発言

■ LGBTQ当事者は、シスジェンダー・異性愛者で性別規範に違和感がない「ふり」をして隠れている

- いじめられるから（既にいじめられている）
- 一時の気の迷い or 病気持ちいから
- 誰に安心して話していいかわからないから

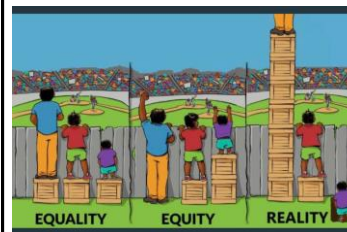


想定されてこなかった存在
＝言えないだけで、いる

冗談・からかいの対象、自己肯定感の低下
＝自分が当事者だと「言えない」

なぜ、LGBTQの人は権利を主張してくるのか？

答え：性的マジョリティに当然ある権利（特権）が、ないから。



平等 公平 現実

- 結婚できる、結婚が選択肢としてある（結婚する権利）
- 一緒に暮らしていても家族（家族生活や社会保障の権利）
- 自分の性別を自分で決める権利（自己決定権）
- 学校や職場に安心して行ける（教育や労働の権利）
- パートナーの話を気にせず言える、言っても問題ない空気（個人の尊厳、プライバシーの権利）等

LGBTQは社会で脆弱な立ち位置にあり、不均衡の影響を受けている。

学校ではLGBTQへの理解ある対応が必須



文部科学省(2015)
「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」

性別違和/性同一性障害の児童生徒だけでなく、LGBTQ全体の不安を受け止め、配慮や対応が必要なことを明記

[性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）周知資料（2016）](#)

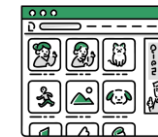
環境整備・風土づくり＆個別支援・対応が必須
※診断書は不要

できること① 学ぶ・発信する

LGBTQの理解者・支援者=ALLY（アライ）

存在を可視化する
=困ったとき相談しやすい

- 多様な性やLGBTQについて、大人も学ぶ
- 異性愛でシスジェンダー以外の人のことを、もっと知る
- 学んだことをいろんな人とシェアしてみる（家族、友人、会合など）。



48

できること② 環境を見直す・整える(1)

(1) 不要な男女分けを見直す。その際「LGBTQへの配慮」としない

- グループ分け ⇒ 星座、誕生日/日、好きな〇〇
- 色分け・シール ⇒ 好きなもの
- トイレ/更衣室 ⇒ 誰でも安心して利用できる**個室**の確保



(2) 普段からシスジェンダー・異性愛や、性別規範を前提としない

- 「女/男らしく」「女/男だから」⇒ その子の個性として受容
- 「異性を好きになる」
⇒ 「同性を好きになる人、誰にも恋愛感情を持たない人もいる」「これだけじゃないよね」など、できるだけ言い換えてみる 等

52

できること②環境を見直す・整える(2)

(3) 多様な性に関するポジティブなメッセージを発信

- 施設、家庭、イベント会場に関連図書・掲示物を置く、お便り等で伝える
- 性の多様性の象徴である[レインボーグッズ](#)を身につけて話題にしてみる 等



(4) 「男/女らしさ」に基づく発言や態度には毅然と介入する
(容認・再生産しない)

- 頭ごなしに否定するのではなく、その発言が出た背景を聞いてみる
- 逆手にとり話題・イベント等で扱う など

性別規範に当てはまらない子どもだけでなく、大人含め「全員」を対象に！

できること③ 相談されたら・・・

- 決めつけない：本人の「ゆらぎ」も含め、聴く
- 急かさない：本人が「自身の性のあり方」に向き合うペースに合わせる
- 押し付けない：「自分の中にある正しさ・規範」を押し付けず、本人の変化を見守る（※具体的に対応してほしい困りごとがない場合）
- 安心して相談できる場を確保：「あなたの味方であること」「理解したいと思っていること」を伝える（いつでも安心して相談してねというメッセージ）
- つながる：具体的な悩みや困難が生じている場合は、
守秘義務があるところに相談しに行ってみる。



54

「特別扱い」をできるだけ減らすための普段の環境づくり

普段から環境整備をしておく、急な相談にも「特別扱い」感を最低限に対応可

・服装や身につける物や色で男女分けしない

→ 自分の好きな色・物が誰でも選べる

・「誰でも」使用できる個室・更衣室やトイレ設置

→ 共用スペースが苦手、身体に傷や痣があり見られたくない、
怪我をして着替えにスペースが必要な子等も安心して利用可

→ 個人のプライバシー/プライベートゾーンが確保される

・普段から相談しやすい環境を作っておく

→ どんな子どもも安心して大人に相談しやすい

LGBTQではない子にとっても必要な選択肢を提供できる！



55

相談されたら、情報共有に注意！

1. 本人の了承なく、他者にその人の性的指向や性自認を伝えないこと

（悪意だけでなく、善意・良かれと思っても絶対にやめてください）

本人の了解を得ずに、公にしている性的指向や性自認などの秘密を暴露する行動は「**アウティング**」（パワハラの一つ）であり、話してくれた相手を差別・偏見に晒す危険性がある

2. 相談されて悩んだら、守秘義務があるところに個人情報を伏せて相談する 身近な友達や先生、家族に話すことはアウティングに繋がるのでしないこと



- カミングアウトされたら「ありがとう」を伝え、「どうして話してくれたの？」と理由を聞いてみるのもアリ（ただ知っておいてほしいだけ、具体的に困っていることがあって助けてほしい等）
- 誰に話しているか確認。共有・連携が必要な場合、「誰に」「なぜ」「どの範囲まで」「どのように」話すかを必ず本人に相談をすること。

最後に

- ・ 家族・友達でもない「大人」の存在の大切さ
- ・ 多様な存在は「子ども」だけではない
 - 同性パートナーで子育てをする親
 - トランスジェンダーの親 など
- ・ 多様な価値観の中で、みんなで共生している





ご清聴ありがとうございました！
本日話した私の性のあり方はアウトイング（口外）
しないようお願いします。

58

【参考資料】リソース紹介

参考になる動画

- 東海テレビ「この性を生きる」
<https://www.youtube.com/watch?v=sO1zm5Ynp2U>
- ACジャパン「聞こえてきた声」 https://www.ad-c.or.jp/campaign/self_all/self_all_02.html
- [ハートネットTV] 多様な“性”を語ろう | LGBTQ+自分のセクシュアリティに気づいたときは？ | NHK
- [ハートネットTV] カミングアウトについて考えよう | 多様な“性”を語るLGBTQ+座談会 | NHK

主な相談先・居場所（守秘義務あり）

①医療機関：性同一性障害診療に関するメンタルヘルス専門職の所属施設

②公的・自治体相談：

- [よりそいホットライン](#)：24時間365日、無料で電話相談が可能
- [つながる にじいろオンライン](#)：毎週火・木・土曜日19時～22時 LINE相談。オンライン交流会も開催。
- 全国の相談先リスト：[LGBTQ相談先リスト](#)(NIJIIRO DIVERSITY)、[相談先を探す](#) (ReBit)
- NHK福祉情報サイトハートネット「[LGBTQ+に関する相談窓口・支援団体](#)」

個人情報伏せ、「こういう相談を受けているのですか、どんな配慮が必要ですか？」

③ 主な支援団体・当事者の生徒向け情報：

- [にじーず](#)：10代～23歳までのLGBTやそうかもしれない子のための居場所。月1開催（全国開催）
- [プライドハウス東京レガシー](#)：東京都新宿区にあるLGBTQ常設センター。フリースペース利用や相談が可能。オンラインでユース向け相談も実施「[ラップアラウンド・サポート](#)（オンライン可）」
- [プライドセンター大阪](#)：大阪府天満橋にあるLGBTQ常設センター。相談やイベントを実施。
- [ASTA「みんなで保護者会」](#)：セクシュアルマイノリティの家族のための「みんなで保護者会」。公式LINEは、保護者が悩んでいる時にすぐに相談できる場所として利用したり、定期的に行うオンライン保護者会の日時の告知を配信します。

学べる図書・サイト

★は特におすすめ！

■おすすめのウェブメディア

- ・Youtube「東京レインボープライド #TRP」"LGBTQの今を知る"シリーズ
最新のLGBTQに関するトピックを動画で視聴し学ぶことができる。
- ・★Youtube「かづえちゃん」: いろんなLGBT当事者にインタビューを行い、その動画をアップしている。
- ・漫画でわかるLGBTQ+ / パレットワーク: LGBTQ+やフェミニズムについての体験に基づく漫画を掲載。
- ・「LGBTER」: LGBTQ当事者やアライ(理解者)のインタビュー記事を掲載。
- ・NHK福祉情報サイトハートネットLGBTQ+: 記事の中に動画や文字で情報が整理されている。
- ・松岡宗嗣Instagram: 分かりやすい見出しと内容でジェンダー・セクシュアリティ、LGBTQに関する情報を発信している。

■教育関連の資料・記事

- ・ALLY TEACHER'S SCHOOL: 学年別のおすすめの書籍などを探したり、授業実践に関する情報がまとまったサイト
- ・岡山県倉敷市 人権教育実践資料: 性の多様性を教える上での基本的な考え方や指導のポイント、小・中学校10名の授業実践の概要を紹介しています。(いじめ未然防止や共生教育についてもあります)
- ・「体育教育から見る、“スポーツのジェンダー化”問題——井谷聡子×清水晶子【VOGUEと学ぶフェミニズム Vol.13(後編)】」
- ・OTEMOTO(2022)「上半身裸の騎馬戦という「地獄」に苦しんだ僕は、教師になった」
- ・★NHK[ハートネットTV] カミングアウトについて考えよう | 多様な“性”を語るLGBTQ+座談会 | NHK: 学校生活の悩みについて複数の当事者が語っている。

63

トランスジェンダーへの理解を深める

■ウェブサイト・記事

- ・trans 101.jp はじめてのトランスジェンダー: トランスジェンダーへの偏見に対するファクトチェックを実施
- ・HUFFPOST(2021)トランスジェンダーが「女性の安全を脅かす」という言説は誤り。性暴力被害の支援者たちが断える
- ・公式 TBS Podcast【特集】トランスジェンダー入門～性別を変えようとはどういうことなのか 高井ゆと里×荻上チキ×南部広美(2023/12/03)

■書籍

- ・浅井春夫ほか(2023)『Q&A 多様な性・トランスジェンダー・包括的性教育 パッシングに立ち向かう 74 問』大月書店・周司あきら・高井ゆと里(2023)『トランスジェンダー入門』集英社
- ・ショーン・フェイ(著)高井ゆと里(訳)(2022)『トランスジェンダー問題 議論は正義のために』大月書店

学べる図書・サイト(大人向け)

【基礎知識、LGBTQメイン関連】

- ・石田仁(2019)『はじめて学ぶLGBT —基礎からトレンドまで』ナツメ社
- ・遠藤まめた(2022)『教師だから知っておきたい LGBT 入門』ほんの森出版
- ・加藤秀一(2017)『はじめてのジェンダー論』有斐閣
- ・葛西真紀子(2019)『LGBTQ+の児童 生徒 学生への支援』誠信書房
- ・周司あきら 高井ゆと里(2023)『トランスジェンダー入門』集英社新書
- ・浅井春夫ほか(2023)『Q & A 多様な性 トランスジェンダー 包括的性教育 パッシングに立ち向かう 74 問』大月書店
- ・森山至貴(2017)『LGBTを読み解く —クィア・スタディーズ入門』ちくま新書
- ・神谷悠一・松岡宗嗣(2020)『LGBTとハラスメント』集英社
- ・神谷悠一(2022)『差別は思いやりでは解決しない —ジェンダーやLGBTQから考える』集英社

【多様性・ダイバーシティ】

- ・ダイアン・J・グッドマン(著)出口真紀子・田辺希久子(訳)(2017)『真のダイバーシティをめざして: 特権に無自覚なマジョリティのための社会的公正教育』上智大学出版
- ・キム・ジヘ(著)・伊怡景(翻訳)(2021)『差別はたいてい悪意のない人がする』大月書店
- ・岩淵功一(編著)(2021)『多様性と対話 —ダイバーシティ推進が見えなくするもの』青弓社

⇒ まずは最寄りの図書館でキーワード「LGBT」、「性」、「ジェンダー」などで検索してみることをおすすめします。

65

小学生向けの絵本

- ・ にじいろのしあわせ ～マーロン・ブンドの
ある いちにち～
- ・ タンタンタンゴはババふたり
- ・ ジュリアンはマーメイド
- ・ Red あかくてあおいクレヨンのはなし
- ・ くまのトーマスはおんなのこ
- ・ 王子と騎士
- ・ ふたりママの家で
- ・ いろいろ いろんな かぞくのほん
- ・ いろいろな性、いろいろな生き方(1)～(3)
- ・ 王さまと王さま
- ・ マチルダとふたりのババ
- ・ 女の子だから、男の子だからをなくす本
- ・ ランスとロットのさがしもの
- ・ ふたりのババとヴィオレット
- ・ 村娘と王女
- ・ あおいらくだ
- ・ まざっちゃんおう!
- ・ たまごちゃん、たびにでる
- ・ わたしは あかねこ
- ・ ピンクはおとこのこのい
- ・ せかいでさいしよにズボンをはいた女の子
- ・ ホオナニ、フラおどります
- ・ かぞくです
- ・ LGBTだけじゃない!わたしの性(全4巻)

参考にしたサイト
<https://madokasuzuki.com/divercity-storybooks/>

66